

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	病弱児の心理・生理・病理							授業形態	講義	
科目コード	750139	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	川田 耕太郎								ICT活 用	
授業概要	病弱の用事、児童又は生徒の病気等に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解する。また一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について理解する。									
関連する科目	障害児教育入門、特別支援教育課程論、病弱児教育総論									
授業の進め方 と方法	授業は、プレゼンテーションを用いた講義を中心としながら、グループによるディスカッションや意見交換を行い、学生が自ら考えたり、他者と協議したりすることで思考を深めていく機会を設ける。									
授業計画 【第1回】	病弱・身体虚弱とは 病弱・身体虚弱とは何なのか、その定義や捉え方について学ぶ。 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第2回】	病弱教育の意義 病弱教育の対象疾患の歴史と病弱教育の意義について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第3回】	子どもの成長と発達 子どもの成長とその特徴について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第4回】	子どもの健康問題の特徴 子どもの健康問題の疫学的特徴について学ぶ 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第5回】	病弱児の心理① 病弱児の抱える可能性のある心理社会的な困難について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第6回】	病弱者の心理② 学童期から青年期の心理的特徴について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第7回】	小児慢性疾患等の生理・病理① 悪性新生物、腎臓病等の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第8回】	小児慢性疾患等の生理・病理② 気管支喘息、心臓病、糖尿病の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第9回】	小児慢性疾患の生理・病理③ 血友病、アレルギー、てんかんの原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第10回】	小児慢性疾患の生理・病理④ 筋ジストロフィー、整形外科的疾患の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	病弱児の心理・生理・病理						授業形態		講義	
科目コード	750139	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	川田 耕太郎								ICT活 用	
授業概要	病弱の用事、児童又は生徒の病気等に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解する。また一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について理解する。									
関連する科目	障害児教育入門、特別支援教育課程論、病弱児教育総論									
授業の進め方 と方法	授業は、プレゼンテーションを用いた講義を中心としながら、グループによるディスカッションや意見交換を行い、学生が自ら考えたり、他者と協議したりすることで思考を深めていく機会を設ける。									
授業計画 【第1回】	病弱・身体虚弱とは 病弱・身体虚弱とは何なのか、その定義や捉え方について学ぶ。 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第2回】	病弱教育の意義 病弱教育の対象疾患の歴史と病弱教育の意義について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第3回】	子どもの成長と発達 子どもの成長とその特徴について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第4回】	子どもの健康問題の特徴 子どもの健康問題の疫学的特徴について学ぶ 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第5回】	病弱児の心理① 病弱児の抱える可能性のある心理社会的な困難について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第6回】	病弱者の心理② 学童期から青年期の心理的特徴について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第7回】	小児慢性疾患等の生理・病理① 悪性新生物、腎臓病等の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第8回】	小児慢性疾患等の生理・病理② 気管支喘息、心臓病、糖尿病の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第9回】	小児慢性疾患の生理・病理③ 血友病、アレルギー、てんかんの原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									
授業計画 【第10回】	小児慢性疾患の生理・病理④ 筋ジストロフィー、整形外科的疾患の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）									

授業計画 【第11回】	小児慢性疾患の生理・病理⑤ 肥満、心身症、うつ病の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）
授業計画 【第12回】	小児慢性疾患の生理・病理⑥ 重症心身障害の原因と治療、教育上の配慮について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）
授業計画 【第13回】	病弱児と医療的ケア 学校における医療的ケアの現状と課題について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）
授業計画 【第14回】	教育と関係機関との連携 学校と家庭、医療・福祉等の連携について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）
授業計画 【第15回】	病弱教育の現状と課題 指導計画を通して病弱教育の現状と課題について学ぶ。 指定した資料等を読み、講義内容について予習をする（30分程度） 授業終了時に示す課題に取り組む（30分程度）
授業の到達目標	1. 病弱教育における教育課程の編成の在り方や手順について説明することができる。 2. 病弱者の親や生活者又は生活上の困難さを理解し、支援の在り方について考えることができる。 3. 自立活動及び自立活動の指導と関連付けた配慮等について授業場面を想定して考えることができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	授業の中で自分の考えや他者との話し合いを求めるため、各自で授業内容について確認や予習をしておく。（30分程度）
授業時間外学習【復習】	受講後はレポートや小テストを実施するので、学習内容を確認、復習しておく。（30分～1時間程度）
課題に対する フィードバック	小テスト等については授業の中で解説をする。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 授業に臨む態度（ペア、グループワーク参加への積極性）と小テスト等の内容（20%） 2) 定期テスト（80%）
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント等を配布する。
参考書	特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2017） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）文部科学省（2017） 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2017） 障害のある子どもの教育支援の手引き 文部科学省（2022） 小学校学習指導要領解説総則編 文部科学省（2017）
備考	15年間、特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）、3年間、小学校に勤務。また、4年間、鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課において研究主事兼指導主事、4年間、鹿児島市教育委員会学校教育課において特別支援教育担当指導主事として勤務した。